

各看護学実習

実習科目・時期・実習目的・単位・時間数・実習場所

実習科目	時期	実習目的	単位数	時間数	実習場所
基礎看護学実習 I part I part II	1年次 後期	対象との関わりを通して、入院環境の理解と看護への関心を深め、看護者としての意識を高める。	1	45 I (18) II (27)	帯広協会 病院
基礎看護学実習 II	2年次 前期	健康が障害されている対象を、全体的な存在として理解し、対象に応じた看護過程を実践する基礎的能力を養う。	2	90	帯広協会 病院
成人看護学実習	2年次 後期	成人看護学及び関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、成人期にある対象の特徴を理解し、健康水準に応じた看護を実践する。	2	90	帯広協会 病院
			2	90	
			2	90	
小児看護学実習 I	2年次 前期	保育所で生活している小児との関わりを通して、健康な小児の成長・発達とそれに 応じた養護を理解する。	1	45	帯広市 保育所
老年看護学実習	3年次	老年看護学及び関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、老年期にある対象の特徴を理解し、健康水準に応じた看護を実践する。	4	180	帯広協会 病院 愛仁園デイ サービスセンター
小児看護学実習 II	3年次	小児の特徴を理解し、成長と発達段階に応じた養護、小児の健康水準と家族の状況に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。	1	45	帯広協会 病院
母性看護学実習	3年次	妊娠、分娩、産褥期の対象と新生児及びその家族の特徴を理解し、次世代健康育成のための家族中心の看護を実践する。	2	90	帯広協会 病院
精神看護学実習	3年次	精神看護および関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、精神的に危機や障がいをもつ対象の理解を深め、必要な援助を考え実践する基礎的能力を養う。	2	90	北海道立 緑ヶ丘病 院
在宅看護論実習	3年次	在宅看護論及び関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、地域で生活する在宅療養者とその家族の理解を深め、必要な援助を実践するための基礎的能力を養う。	2	90	十勝管内 訪問看護ステ ーション
統合実習	3年次	看護チームの一員としての自覚をもち、複数の対象の受持を通して、既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況・状態に応じた看護が実践できる能力を身につける。	2	90	帯広協会 病院

専門分野 I

基礎看護学実習 I p a r t 1

実習目的	対象との関わりを通して入院環境の理解と看護への関心を深め、看護者としての意識を高める。
実習目標	1. 対象理解を深めるために効果的なコミュニケーションを図ることができる。 2. 看護の実際の場面に参加し、看護者としての自覚と責任を高めることができる。
実習方法	1 グループ 7～8 名の配置。 病院の理念や看護部の理念・目標、病棟内の構造等のオリエンテーションを受ける。 受け持ち患者を 1 名担当して実習を行う。 コミュニケーション・バイタルサイン測定を指導監督のもと実施。
評価	実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。 実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。

基礎看護学実習 I p a r t 2

実習目的	対象との関わりを通して入院環境の理解と看護への関心を深め、看護者としての意識を高める。
実習目標	1. 対象理解を深めるため効果的なコミュニケーションを図ることができる。 2. 対象の基本的ニーズを考え、日常生活援助を実施することができる。 3. 看護者として臨床のあらゆる場面において自覚と責任ある行動をとることができる。
実習方法	1 グループ 7～8 名の配置。 受け持ち患者を 1 名担当して実習を行う。 コミュニケーション・バイタルサイン測定を指導監督のもと実施。 援助技術は指導監督のもと実施もしくは、看護師の実施する援助を見学する。
評価	実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。 実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。

基礎看護学実習Ⅱ

実習目的	健康が障がいされている対象を全体的な存在として理解し、対象に応じた看護過程を実践する基礎的能力を養う。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 対象理解に向け、看護者として対象を尊重した態度で関わることができる。2. 対象の身体的・心理的・社会的側面を理解し、全体像の把握につなげることができる。3. 対象の個別性に応じた看護実践をするため、看護過程を展開する基本的方法を理解することができる。4. 医療チームの一員としてあらゆる学習の場において自覚と責任ある行動ができる。5. 実習体験を通して自己の看護に対する考えを述べることができる。
実習方法	<p>1 グループ 7～8名の配置。</p> <p>受け持ち 1名を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>疾患・治療状況を考えながら自己の行動計画に基づいて日常生活の援助を実施する。</p> <p>受け持ち患者への援助を実践する際は、事前に指導者に申し出て指導者の指導・監督の下で実施する。</p>
評価	<p>実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。</p> <p>実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。</p>

専門分野Ⅱ

小児看護学実習Ⅰ

実習目的	保育所で生活している小児との関わりを通して、健康な小児の成長・発達とそれに応じた養護を理解する。
実習目標	日常生活（保育）の実際を通して小児の特徴を捉え、子どもの成長・発達に応じたに日常生活の援助方法を学ぶことができる。
実習方法	帯広市内の保育所での実習 1グループ3～4名の配置 保育所の一日の流れに沿って指導者の指導のもと実習し、各年齢層の子どもと関わる。
評価	実習時間の2/3以上の出席をもって評価対象とする。 実習評価表によって、60点以上のものを合格とする。

小児看護学実習Ⅱ

実習目的	小児の特徴を理解し、成長と発達に応じた養護、小児の健康水準と家族の状況に応じた看護実践する基礎的能力を養う。
実習目標	1. 小児期の特徴や発達段階をふまえ、子どもとその家族を理解することができる。 2. 子どもの病態・発達段階に応じた看護を実践する能力を養う。 3. 子どもと家族との相互作用を通して信頼関係を築く能力（人間関係技能）を養う。 4. 医療チームの一員としての自覚を持ち、看護者として世金を果たす基本的態度を養う。 5. 看護実践をとして、小児看護における看護師の役割について考え看護観を育成する。
実習方法	1グループ5～6名の配置。 小児期にある対象を1名受け持ち、看護過程を展開する。 受け持ち患者への援助を実践する際は、事前に指導者に申し出て指導者の指導・監督の下で実施する。
評価	実習時間の2/3以上の出席をもって評価対象とする。 実習評価表によって、60点以上のものを合格とする。

専門分野Ⅱ

成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

実習目的	成人看護学実習及び関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、成人期にある対象の特徴を理解し、健康水準に応じた看護を実践する。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. ライフサイクルからみた成人期の特徴や発達段階を理解し、対象を総合的にとらえることができる。2. 対象の健康上の問題を把握し、対象の健康水準に応じた看護過程（問題解決過程）を展開する能力を養う。3. 成人期にある対象との相互作用を通して、対象との間に信頼関係を築く能力（人間関係技能）を養う。4. 医療チームの一員として、自覚と責任を持って行動し、看護者として相応しい判断基準・態度を養う。5. 看護実践を通して、自己の看護観を養う。
実習方法	<p>1 グループ 7～8 名の配置。</p> <p>成人期にある対象を 1 名受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p><u>急性期一回復期の経過にある対象に応じた看護の実践</u></p> <p>急性期は何らかの侵襲により生体に急激な変化があり、生体はその変化に適応するために様々な反応を起こしているという特徴を理解し、患者役割への変換を助け悪化や二次予防の苦痛の緩和に必要な援助を学ぶ。回復期は医療や治療への依存度が高い状態からセルフケアの度合いが増えるという特徴を理解し、疾病の悪化予防に努め日常生活行動の拡大と自立を図り、社会復帰に向けての必要な援助を学ぶ。</p> <p><u>慢性期の経過にある対象に応じた看護の実践</u></p> <p>慢性期では疾病の完全治療が望めないまま長い経過をたどり、生涯にわたりコントロールを必要とする特徴を理解し、対象の疾病や障害の需要を助け、セルフケア能力拡大に向けた援助を学ぶ。</p> <p><u>終末期の経過にある対象に応じた看護の実践</u></p> <p>終末期は疾病または老化により、心身の回復は期待できず、確実に死に向かう時期であることを踏まえ、対象の全人的な苦痛、及び危機的状態にある家族を理解し、人間の尊厳にかかわる QOL を高めるために必要な援助を学ぶ。</p>
評価	実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。 実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。

専門分野Ⅱ

老年看護学実習

病棟実習 3週間	
実習目的	老年看護学および関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、老年期にある対象の特徴を理解し、健康水準に応じた看護を実践する。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. ライフサイクルからみた老年期の特徴や発達段階、生活の連続を理解し、対象を総合的にとらえることができる。2. 対象の健康上の問題を把握し、対象の健康水準に応じた看護過程（問題解決過程）を展開する能力を養う。3. 老年期にある対象との相互作用を通して、対象との間に信頼関係を築く能力（人間関係技能）を養う。4. 医療チームの一員として、自覚と責任を持って行動し、看護者として相応しい判断基準・態度を養う。5. 看護実践をとおして、自己の看護観を養う。6. 地域で生活する高齢者へのケアを通して、高齢者の生活（健康）への理解を深める。7. 高齢者の在宅生活を支えるために、他職種との連携について理解を深める。
実習方法	<p>1 グループ 5～6名の配置。</p> <p>老年期にある対象を1名受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>老年期の特徴を踏まえ対象理解を生かした看護実践を健康水準に応じて実践する。</p>
評価	<p>実習時間の2/3以上の出席をもって評価対象とする。</p> <p>実習評価表によって、60点以上のものを合格とする。</p>
デイサービス実習 2週間	
実習目的	老年看護学・在宅看護論および関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、地域で生活する高齢者への理解を深め、援助者として必要な関わりを考え、実践できる。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 利用者一人ひとりの言動に関心を持ち、利用者の思いを尊重した関わり・コミュニケーションができる。2. 複数の利用者の言動に目を向け、その場の雰囲気・人間関係に留意しながら、一人ひとりの利用者のニーズに応えられるように考え、行動できる。3. チームの一員としての自覚をもち、グループメンバーと協力し主体的にスタッフと関わり指導・助言のもと「利用者にとってのサービス提供の場」であることを意識し行動することができる。4. 指導・助言から日々、自分の言動・考え方を振り返り、ケア従事者にふさわしい態度の育成に向け主体的に努力できる。5. 利用者にとって安全・安楽なサービスが提供できるよう、自

	<p>己の健康管理ができる。</p> <p>6. 体験（利用者・スタッフとの関わり）を具体的に振り返り、ケア従事者としての自己のコミュニケーション技能・態度について考察できる。</p> <p>7. 地域で暮らす高齢者との関わりを通して高齢者にとっての健康・生活を支えるデイサービスの機能・役割について考察できる。</p>
実習方法	<p>デイサービスセンターでの実習</p> <p>1グループ5～6名の配置</p> <p>デイサービスセンター利用者の迎え、利用者とのコミュニケーション、レクリエーション・アクティビティの参加・企画・実施。入浴介助、歩行・外出援助への参加など。</p>
評価	<p>実習時間の2/3以上の出席をもって評価対象とする。</p> <p>実習評価表によって、60点以上のものを合格とする。</p>

専門分野Ⅱ

母性看護学実習

実習目的	妊娠・分娩・産褥期の対象と新生児、及びその家族の特徴を理解し、次世代の健全育成のための家族中心の看護を実践する。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 妊娠・分娩・産褥期の対象と新生児、及びその家族を統合的に理解する。2. 対象に適した看護を計画・実施・評価する能力を養う。3. 対象および家族と信頼関係を築く能力（人間関係技能）を養う。4. 医療チームの一員として自覚をもって行動し、看護者の役割と責任を果たす基礎的能力を養う。5. 次世代の健全育成や母性看護の役割について自己の考えを深めることができる。
実習方法	<p>1 グループ 5～6名の配置。</p> <p>正常の分娩・産褥経過（帝王切開を含む）の女性とその新生児を学生 2人 1組で受け持ち看護を実践する。</p> <p>今ある健康状態を維持・増進することや今後起こる可能性（潜在的な問題）に主眼を置いてアセスメントし、看護過程を展開する。</p>
評価	<p>実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。</p> <p>実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。</p>

専門分野Ⅱ

精神看護学実習

実習目的	精神看護及び関係領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、精神的に危機や障がいを持つ対象の理解を深め、必要な援助を考え実践できる。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 対象との関わりを振り返り、関係を築きながら対象理解につなげることができる。2. 対象を総合的に理解し、必要な看護を考え、援助の実践に結びつけることができる。3. スタッフ及びグループメンバーと積極的に相互作用を図り、対象への看護を共有できる。4. 実習を通して、自己の看護観を養うことができる。
実習方法	1 グループ 5～6名の配置。 対象を1名受け持ち対象理解及び看護実践に取り組む。 実習メンバーとの情報の共有を通して対象理解、援助関係成立にいかしていく。
評価	実習時間の2/3以上の出席をもって評価対象とする。 実習評価表によって、60点以上のものを合格とする。

統合分野

在宅看護論実習

実習目的	在宅看護論および関連領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、地域で生活する在宅療養者とその家族の理解を深め、必要な援助を考え実践するための基礎的能力を養う。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 地域で生活する在宅療養者とその家族について対象理解を深めることができる。2. 在宅療養者を統合的に理解し、必要な看護を考え援助の実践に結びつけることができる。3. 看護者として責任ある行動をとり、対象への看護を共有することができる。
実習方法	<p>1 グループ 5～6名の配置。</p> <p>各訪問看護ステーションのスケジュールを優先し、指導者と調整しながら訪問に同行する。</p> <p>訪問先で指導者見守りのもと日常生活援助に参加する。医療処置技術の実施は原則として見学とする。</p> <p>全グループの訪問看護実習終了後、クラス全体で実習を振り返り、情報の共有を通して訪問看護の機能・役割について再確認する。</p>
評価	<p>実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。</p> <p>実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。</p>

統合分野

統合実習 看護の統合と実践

実習目的	看護チームの一員としての自覚をもち、複数の対象の受け持ちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況・状態に応じた看護実践能力を身につける。
実習目標	<ol style="list-style-type: none">1. 看護管理の実際が理解できる。2. 医療チームの一員としての看護活動の実際が出来る。3. 複数の患者を受け持ち、ケアの優先度、時間管理、安全を考慮して看護実践できる。4. これまでの実習を通して、看護観を明らかにすることができる。
実習方法	<p>1 グループ 5～6名の配置。</p> <p>医療チームの一員として連携の必要性について認定看護師、他部門からの講演を聴講する。</p> <p>管理業務について学ぶ（病棟管理者、チームリーダーの実際）</p> <p>チームメンバーの役割・援助内容・他のスタッフとの連携を学ぶためスタッフについて業務の実際を学ぶ。</p> <p>対象者を取りまくチームメンバー間で報告・連絡・相談を主体的に行う。</p> <p>複数の患者を受け持ち、日々の状況を踏まえながらケアの優先度、時間管理、安全を考慮した看護を実践する。</p>
評価	<p>実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価対象とする。</p> <p>実習評価表によって、60 点以上のものを合格とする。</p>